

# 図書館だより

Library News No.59  
Nara National College of Technology

2003年11月 奈良工業高等専門学校図書館発行



表紙絵 41 市川 まどかさん

## 目次

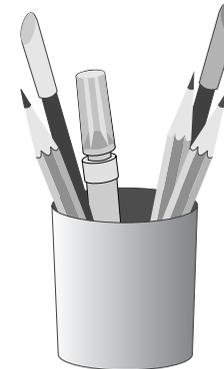
巻頭言「情報洪水の中で学ぶ」.....	2	読書週間行事について .....	9
特別寄稿「南極に思う」.....	3	新刊書棚から .....	10
学生図書委員会の広場 .....	4	図書館花巡りツアー .....	12
文献検索について .....	8		

この十年余りの間、情報化の進展には目を見張るものがあります。特にパソコンの普及とあいまってインターネットが驚異的な発展を遂げ、そのネットワークは社会の隅々まで広がってきています。世界中を情報源とするインターネットの利便性は、今更いうまでもないと思います。私自身も、簡単な調べ物や出張の際の列車・飛行機・ホテルの予約までインターネットのお世話になっています。

しかし最近、たまたまラジオでちょっと気になる話題を耳にしたことがあります。それは、小学生の話ですが、学校で色々な調査を要する宿題が出されると、彼らの多くはインターネットで必要な情報を検索して宿題を仕上げたしまい、じっくり本を調べながら宿題をやる子供が少なくなってきたということでした。実はこの数年、私は本校の学生諸君についても同じことを感じています。例えば、私の研究室で卒業研究を行っている学生たちは、自分の研究テーマに関係する理論などを調べるために専門書ではなく、インターネットをよく利用しているようですし、授業で教科書には簡単にしか述べられていない定理や理論を詳しく調べるような課題を出しますと、明らかにインターネットのお世話になったと思われるレポートが何通かあります。勿論、現代の便利なツールを利用して、短時間で効率的に必要な事柄を調べることを否定するものではありません。

重要なことは、インターネットに代表される電子メディアと紙メディア（本）の特性をよく認識しておくことです。電子メディアは、大量の情報の中から必要な情報をすばやく見つけたり、多くの情報を概観したりするためには大変便利です。しかし私たち人間にとって最も大切な思考を深めるといった目的にはなじまない性質があります。一方、紙メディア（本）を読むということは、電子メディアを見る（敢えて“読む”という言葉を使いません）ことに比べて、多少時間がかかり、骨が折れますが、言葉や文字を通して思考するという機会を私たちに与えてくれます。そしてこのことが、人間として最も大切な深い思考力や創造力を高めることにつながるのです。また時には専門を離れて、優れた文学作品やエッセイなどを読むことも大切でしょう。皆さんは将来、優れた技術者である前に、視野の広い豊かな人間性を備えた“人”であることの方がもっと大切なのですから。

情報洪水と呼ばれるように、色々なメディアを通して大量の情報が供給される現代です。皆さんは、この洪水に飲み込まれて自分自身を見失うことのないよう、これらメディアの性質をよく理解し、必要な情報は何かをよく考えて、主体的に生きて欲しいと、私は思います。



## 特別寄稿

### 南極に思う

事務部長 東 正憲

このほど、本校の学生課（技術室）職員の笹山さんが、南極地域観測隊の越冬隊員に選ばれた。15年11月に成田空港から出発、オーストラリア・フリーマントルから観測船「しらせ」に乗船、南極に向かい、帰国は17年3月の予定である。子供の頃からの夢が実現したものだ。

南極地域観測は昭和32年に始まった。戦後復興期にあるも、当時の日本国ではその経費をすべて賄うことができず、国民から義援金を募り行われた。オングル島に昭和基地を築いた。カラフト犬タロ・ジロの世界、まさに命がけの冒険の領域であった。

いまは「しらせ」によって一千トンの物資が搬入され、昭和基地は南極地域観測の世界的拠点となっている。オゾンホール発見は長年の観測データの蓄積による成果である。医師、調理師・コック、パイロットなども参加し、女性の隊員も派遣され、通信も衛星利用。

南極の夏は短い。その間を利用し、「しらせ」によって運ばれた新しい資材で、基地建物・設備の補修・更新、観測機器の新設等が、本来の観測活動とともに行われる。それらの作業は、時間との競争である。わずかの専門家の指示で、国内で訓練してきた素人隊員が、「しらせ」乗組員（海上自衛隊員）の協力を得つつ全てを行っている。支え合わなければ進まない。

南極の冬は長い。仕事の合間にオーロラを楽しむこともあるかも知れない。しかし、外は極寒、ブリザードの世界、死と隣り合わせであることに変わりはない。

隊員は限られた人数で、全てを行っていかねばならない。あるもので工夫し、失敗もし、またやり直し、ひとりひとりの知恵とチームワークで全てを乗り越えていかねばならない。ひとりひとりが貴重、かけがえのない仲間。いつも一緒にいたい人がいる。気の合わない人がいる。楽しい人がいる。話したくない時もある。どこの社会にもあること。それも仲間、同志、南極に魅せられた同じ人たち。越冬期間、生死をともにする。

昭和基地には、図書コーナーがあるようだ。冬の夜長、各自が持ち寄った愛読書が引き継がれていく。

本の中はまた別世界。いろんな人がうごめいている。いろんなことを主張する。苦悩する人、ハチャメチャな人、まさにひと様々。そんななかで、新しくやっていく希望と勇気を与えられているのかも知れない。



## 学生図書委員会の広場

### 図書委員になって思うこと

1 E 服部成輝

僕は高専生ですが国語が好きで数学が嫌いです。図書委員になったのも本を読むのが好きだったからです。図書委員になったからには、ひまさえあれば毎日図書館に行って本を読みまくってやろう思っていたのですが、実際そううまくはいかないものです。僕は運動クラブに入ってしまった、入学してから図書館にはまだ5回くらいしか行ってないです。部活が休みの日に図書委員会があったときなんかは図書委員になったことを後悔することもあります。

でも、僕は中学校のころから図書委員になることにあこがれていたんで、やっぱりできるかぎり図書委員の中の一人として、図書館を利用する人の役に立つことがしたいと思います。特にブックハンティングの制度とか、奈良高専の図書館にはいろいろ便利な利用の仕方があるので、そのことをみんなに知ってほしいです。その前に僕自身ももっと図書館を利用して、たくさん本を読んでいきたいです。

### さすが！高専図書館

1 I 林 重樹

わたしが初めてこの高専の図書館を見たのは入学説明会の時でした。お昼休みの時にちょうど説明があった大視聴覚室の隣にある図書館を見てびっくりしました。それは2階建てだったことです。わたしの小学校、中学校はもちろん、町の図書館でさえ1階しかなかったからです。それに専門書が多いこともとても魅力的でした。図書館には文学系が多くてわたしの好きなパソコンなどの本があまり置いていないことが多いのですが、さすが高専というくらい一角が全て理系の本だったことにも驚きました。

そして、高専に入学して、図書委員になりました。小さい頃から本を読むのが好きで、中学時代も図書委員を何度かやっていたので、高専でもやってみようと思ったからです。最近はあまり活動していなくて、図書館へはあまり行かなくなっているわたしですが、これからは時間を取ってゆっくと本を読む

時間をつくってみようかなと思います。

### 読書について

1 C 石田雅史

僕が本を読むきっかけとなったのは小学校4、5年生の時でした。国語の授業中に教科書の別のページを開きそこにあった小説が面白かったことから本を読むようになりました。

僕は本の中では歴史小説と推理小説が好きです。なぜかと言うと歴史小説は作者や主役によって同じ時代でもまったくちがうような状況みたいに書いてあるからです。推理小説は自分でどんなトリックが隠されているかとかを自分でも考えながら読み進んでいけるというところが好きです。本の割合は歴史小説と推理小説では7対1ぐらいの割合で他の小説はほとんどありません。あと歴史小説の7割ぐらいは三國志がしめています。

歴史小説について作者や主役によってどう違うのかというと、まず歴史小説は史実をもとにして作者が史実に少し肉付けをしたりしている部分が違ったり、原本を訳したものでも訳した人によって少しずつ違います。しかも原本の長さにもよって訳す人による創造や考えなどが多くなります。ひとつ訳について例をあげるとハリーポッターなどの洋書も日本語に訳されているものが正解ではなく1つの訳だと僕は思います。次に主役による違いについては、例えば敵対している勢力の場合見えている状況が違うので必然的に話が同じ時代でも違うように感じる時があります。主役は本の中だとたいてい正当化される事が多いのでそれにより脇役の人物の性格や様子などが変わるときがあります。そういうものはたいてい作者が主役になったつもりで考え書いているので主役の性格や能力によって脇役を見る眼が変わるのだと僕は思ってます。

このように作者の考えや意見が本を読む事で多少理解する事ができるから本を読むことは大切だと僕は思います。

## 有意義な時を過ごせて満足

2 I 八木賢大

あまり勉強が好きではない自分が参考書などをじっくり吟味することが少ないためいい機会だと思って、先日、ブック・ハンティングに参加させて頂きました。参考書は種類も数も豊富にあり、どの参考書が一番効率よく情報を手に入れられるかを見比べるため、一緒に参加してもらったクラスメイトと一冊一冊手にとって話し合いながら選びました。ぜんぜん苦痛なものではなく、そうこうしているうちに気が付けばものすごく時間がたっていたのにはびっくりしました。購入する本は参考文献ばかりではなく、趣味の分野の本も入れることができるのでさらに満足することができました。身近にある本を手取ることによって有意義な時間を過ごせ、いい経験になるので僕みたいな勉強嫌いな人もそうでない人も本に触れ合う時間を少しでも増やして、今まで以上に本に興味を持ってほしいと思いました。

## 図書館のいいところ

2 E 久保田拓也

図書館には、バラエティにとんだ本から、専門書に至るまで色々な本があり、非常に利用価値が高いと思います。実際に他校よりも本の冊数が圧倒的に多いし、一般の方たちも利用できるのもいいところだと思います。

さらに最近の映画から昔の映画まで、結構いろいろな数がそろっているAV機器のコーナーも、かなり魅力があると思います。僕もここでゴッド・ファーザーの映画を見ました。

さらに、ブック・ハンティングという学生に好きな本を買わせるイベントも、幅広い分野の本と最新の本が手に入るのになかなか熱いと思います。これからはどんどん図書館を活用して欲しいと思います。



## 図書館の利用について

2 E 山本裕一

僕はよく図書館を利用します。どんな時に利用するかといえば、試験前やレポートを書く時にも確かに利用しますが、どちらかと言うと休み時間の合間や、授業の休講などで時間が少し空いた時の方がよく利用しています。

奈良高専の図書館には専門的な参考書が多くありますが、意外にも漫画やファンタジー小説が結構あります。僕は通学時間が長いこともあり、この時間を利用して多くの小説等を読むことが出来ました。読みたい本を読み終えた後も、次ぎに読む何か面白い本を探して、空き時間を利用してたびたび図書館に通っています。

それから、奈良高専の図書館では、夏と秋の年2回に、ブック・ハンティングといって、図書委員と有志の人数名で本の買い出しに行くことが出来ます。その際に買う本は主に図書館のリクエストBOXにリクエストされた本ですが、買い出しのお金の余った分は、自分たちで図書館に置く本を決められますので、興味のある人は参加してみてもいいでしょうか。

## ブックハンティングの感想

2 I 衛藤 聖

ブックハンティングに参加させて頂くのは今回で二回目でした。図書委員として、クラスの希望に添えられるよう、一般書や専門書、参考書を限られた予算内でバランス良く選ばなければと、使命に燃えたの出発だったのですが、なかなか思うようには進みません。目当ての本が全然見つからないので、店員さんに一緒に探してもらったり、在庫を調べて頂いたり、随分とお世話になってしまいました。結局、クラスから出た希望の本を全部見つけることはできなかったうえ、特に専門書はさっぱり空振りに終わってしまったのですが、一般書の方は長い時間をかけて吟味して選び、ちょっぴり自分の希望も取り入れてみたりして、なかなか充実したハンティングでした。今回手に入らなかった専門書も、また改めて要望を聞いて貰えるとのことなので、一安心です。ブックハンティングは、もちろん完全にはいきませんが、個人の希望が図書館に反映される、

良い機会だと思います。こういうイベントをきっかけに、図書館の利用者が増えてくれたら素直に嬉しいです。みなさんも、今回の私達のハンティングの成果を見に、是非一度図書館に足を運んでみて下さいね。

## 利用すればするほど 図書館はよくなる

2 S 緒方良治

自分は図書館をよく利用します。なぜなら、自分は活字は嫌いではないからです。図書館には小説、雑誌、参考書、その他サザエさんのマンガとか、たくさん本があるので暇なときは行くようにしています。小説は、とてもたくさんあるので、読む本に困ったことはありません。自分が初めて図書館で借りた本は、参考書だったと思います。カウンターのところで今まで何を借りたかが調べられるので、調べてみると面白いかもしれません。話を戻しますが、自分がなぜ参考書を借りたかという、問題でわからないところがあったからです。図書館は学校の中にあります。なにかあれば、すぐに本を借りに行くことができ、中で勉強することもできます。これはすばらしいことだと思います。なので僕は図書館で勉強したり参考書をよく借りています。高専にいて図書館を利用しない手はありません。みんなもっと利用すべきです。でも荷物を置くスペースや、イスの数にも限りがあるので、そんなに増えても少し困りますが……。それに図書館は、“図書館”といって、普通の高校では“図書室”ではないでしょうか。“館”なのです“室”ではないです。これもまたすごいことだと思います。一般の人でも借りにこれるし、なんといっても二階建がすごい。一階と二階があるのです。これにはだいぶ驚きました。なぜか話がだいぶ飛んでしまいましたが、図書館で最近借りた本は、「終戦のローレライ」です。この本はかなりいいです。この本は自分が去年一年のとき、自分のクラスが多読表賞でもらった図書館に一万円分本を入れてもいいという権利をもらい、それによって図書館に買ってもらった本です。図書館でたくさん本を読めば、自分たちの好きな本が図書館に入る。こんな風に、図書館は利用すればするほどいいのです。僕はこれからも図書館を利用していきます。

## 図書館の利用について

2 C 道下友美

高専の図書館には読書のための小説や雑誌の他、勉強のための各学科の専門書があり、レポートのことでちょっと調べたいことがある、という時などにはとても役に立ちます。専門図書は数も種類も多いので、私はレポート作成にはまず図書館を利用することにしています。もちろん小説や雑誌も数多く、学生の希望を聞いて図書を購入したりもするので、様々なジャンルのものがあります。また、年に2回ブック・ハンティングがあるので、新しい本も割合早く読むことができます。(ただ、返却期限を過ぎてもなかなか本が戻ってこないこともあり、それはとても困ります。返却期限は守るようにして下さい。)

7月から図書館をもっと便利に、快適に利用してもらおうと、館内のいろいろな場所に「意見箱」というものを設置しています。皆さんの意見を取り入れてよりよい図書館にしていきたいと思うので、是非この「意見箱」も利用してみてください。

## やりたいこと

4 S 小林 幹浩

今年度、図書委員長に就任しました4Sの小林幹浩です。毎年図書委員になっているわけですが、今年の自分の目標は図書館が使いやすくなったという言葉が聞けるようにやっていくことです。同時に自分自身が、ブックハンティングや本の整理により、より良い本に出会う機会になればいいなと思っています。

今までに図書館に手を加えた事は“目安箱”という名前の意見箱を設置し、投稿があれば返事を書いて提示するといった事です。皆さんは希望、意見があれば投稿して下さい。そうすることで少しずつですが図書館を自分たちで変えていけるはずですので。



## 本との出会い

4 S 齊木惇高

本を読み出したきっかけは、高専に編入してくる前の高校の図書館でふと手を出した本からだったと思います。レポートの資料を探しに図書館を訪れたとき新刊図書のコーナーにタイトルは忘れましたが図解雑学シリーズの宇宙物理系の本がおいてあり借りたことからだったと思います。今まで自主的に図書館に入ることなどなかったのですがこの本をきっかけに毎昼休み図書館に通い出し、図解雑学シリーズはほぼ読破しました。

その後も高等な知識が得たいと思い、分野を問わず生物、数学、哲学など読書の幅を広げていきました。高専に入学してまず図書館の大きさに驚きました。また、本の内容も高等なものが多く今も常に数冊本を借りて読んでいます。

本は自分の知らない、授業では決してみることでできない世界を見せてくれます。特に科学が好きで様々な科学系の本を読んできましたが、その半分は授業とは関係の無い教科書に載っていない内容です。それでもなぜ本を読むかというと、純粋に興味がありおもしろいからです。また本を読んで、将来自分が何をしたいかを見つけることができました。本が嫌い、または何らかの形で半ば強制的にしか本を読んだことがないという方も高専の図書館にはたくさん本がある為、自分にあった本を見つけることが出来るかもしれません。一度図書館を訪れて棚の間を歩いてみてはどうでしょうか。

### どんな意見があるかな？ 目安箱回答についての中間レポート

図書館に目安箱が置いてあるのに気づいていますか。これは、少しでも利用しやすい図書館にしようとして今年の夏、学生図書委員会で設置したものです。

どんな意見でも結構ですので、気軽に意見を書いて下さい。できるところは、どんどん改善していきたいと思っています。

学生レベルで解決できないものもたくさんありますので、先生にもお願いして解決の方法を見つけたいと思っています。いままでのところ、以下のような意見が出ています。僕なりに回答してみました。

**意見 図書館の閉館時間はちゃんと守ってほしい**

開館時間は平常、20時までです。20時まで閲覧できるのではなく20時までに退出してください。閉館予告を20時までに言いに行きますが、20時までに退出すればいいです。勤務時間の限界まで開館してあるのでご協力のほうをお願いします。

**意見 新潮社文庫の百選を並べてほしい**

他社の本と組み合わせると、ほぼすべての百選がカバーできています。回答欄（図書館入口）に挿入するので見てみてください。

**意見 図書館の新しく買ったPCを検索などの目的以外で長時間占領している人がいる。**

前々から問題になっているので何らかの対応を検討中です。

**意見 図書館の検索のデフォルトをもう少し使いやすく設定してほしい。**

設定を変えました。使いやすくなったでしょうか。

**意見 本、楽譜を追加してほしい。**

購入希望図書欄に書いていただくか、ブックハンティングのときに言ってください。

**意見 かばんを置くところを広くしてほしい。**

広くするにはどこかの場所を充当する必要があります。しかし、よいスペースがあればよいのですが、適当な場所がなく何かが不便になるので現在未解決です。

**意見 図書がたくさんあっていい。**

ありがとうございます。

**意見 騒がしいので注意してほしい**

僕もそう思います。時々勉強する気にならないほど騒々しいときがありますもんね。（僕も気を付けなければ・・・）ある程度の会話は仕方ないですが、節度を保ってほしいですね。

（学生図書委員長 小林）

## 第5回高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウムに参加して

物質化学工学科 直江一光

去る7月31日、8月1日と長岡技術科学大学で開催された第5回高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウムに参加してきました。このシンポジウムは全国の高専図書館と技術科学大学（技科大）図書館の関係者が集い、意見交換や研修を受けたりする集まりです。今回、2日目に研究文献データベースの講習会があるということで、日頃、文献複写の利用が多い私にご指名があり、参加することとなりました。

初日は、高専の独立行政法人化（独法化）の準備状況と高専の図書館がどのように方向に進んでゆくのかということについての講演会がありました。高専は来年4月から国立大学と同様に、独立行政法人という一種の会社になります。図書館にはたくさんの本があり、現在は国の持ち物ですが、来年4月からは「独立行政法人 国立高等専門学校機構」という会社の持ち物になります。したがって、財産である本の管理や購入のやり方も変わってくるわけです。また、長岡技科大の次期学長の講演もあり、独法化後も従来通り、高専図書館の支援を続けていくことが表明されました。

2日目は、電子ジャーナルの研修を受けました。電子ジャーナルとは研究論文などが掲載されている学術雑誌が電子化されたもので、近年、多くの出版社が急速に電子化を進めています。今回、研修を受けたのはElsevier社の学術文献データベースScience Direct（SD）で、長岡技科大図書館が中心となり、全国の高専がお金を出し合って共同でサービスを受けているものです。（SDコンソーシアム：残念ながら本校はお金をケチってサービスを受けていません。）利点は、インターネットでいつでも雑誌を閲覧でき、キーワードを入力するだけで何万とある論文の中から欲しい論文を検索することができること、（なんと論文に載っているグラフまで検索することができます。）そして何よりも紙に印刷されたものに比べ、遥かに安い費用で多くの雑誌を見ることができる点です。私も実際に研修を受け、その様々な機能に感心し、これがあまりお金をかけないで利用できるならたいへんありがたいと感じました。

さて、学術雑誌は、国内外を問わずどの研究分野にも存在し、研究者はそれぞれ自分が関係する分野の学術雑誌に研究論文を発表します。（よくニュースなどに出てくるNatureやScienceなどがそうです。）したがって、学術雑誌に掲載されている論文(文献)を調査をすれば、関連する分野においてこれまでどのような研究が行われてきたか、また、現在、何が注目されているかなどを知ることができます。そこで、研究者は新たなテーマについて研究を始める場合、まず、文献調査を行うことによって自分の研究の位置付けをはっきりさせます。注目する分野の流れを知っておかないと、ただの自己満足の研究に終わってしまうかもしれないからです。（例えば、商売でも同じで、市場調査をしてどんな需要があるかを調べてから商品開発をしないと何も売れません。）

本校でも、5年生は自分自身の卒業研究テーマに取り組み、また、専攻科生はさらに専門的な特別研究テーマに取り組みんでいます。彼等が将来、大学院や企業に進んでそれぞれの分野の第一線で活躍するためには、日頃から自分の研究に関連する文献に目を通し、また、キーワードをもとに文献検索をするくらいの取り組みが必要です。しかしながら、高専の図書館には学術雑誌は極めて少なく、ましてや外国の学術雑誌はほとんどありません。これでは将来、技術立国日本を支えてゆく技術者や科学者の卵を育てる環境としては貧弱すぎます。今後は、このような学術媒体資源の充実が重要になってくるのではないのでしょうか？

## 読書週間行事について

### —ロボカップが切り拓く未来— 「アトム実現にむけた最近のロボット工学」

20世紀が生んだ不世出の天才漫画家・手塚治虫による空想未来マンガ「鉄腕アトム」の主人公ロボット・アトムは2003年4月7日に生まれました。しかし描かれたのは今から50年前のことです。空想の未来が、いま現実となりました。アトムに近いロボットはまだ実現出来ていませんが、ヒューマノイド型で二本足で歩くロボットが出現するまでになりました。ペット型のロボットもたくさん生まれています。これからはいままでとは違った愛犬家、愛猫家が増えるのか、結構気になるところです。老人ホームやいろんな施設で活躍しているといったニュースを聞くにつけ、「あー、世の中変わった」とため息混じりにつぶやいてみたり。

そんなわけで、図書館委員会では今年読書週間の催しとして、アトム誕生を記念して、ロボカップが切り拓く未来 「アトム実現にむけた最近のロボット工学」という大それたテーマで臨むことになりました。関連展示本は、ロボット工学の専門書から、マンガまで。図書委員会では、ペット型ロボット・アイボを購入、もしくはレンタルで展示しようという意見も出ましたが、残念ながらボツとなりました。あ～、残念。

ところで、みなさんは本校正面玄関横に展示してある「アイデア対決・高等専門学校ロボット・コンテスト」で勇名を馳せた名機「スター・キング」を見たことがありますか？ 美しい放物線を描いて落下してゆく、この「スター・キング」の円盤をみて審査員はうなつたと語り継がれています。奈良高専の名を全国に知らしめた、「ロボコン」。今年もそろそろ大会が近づいて来ました。

折しも映画「ロボコン」が全国の映画館で上映されています。映画は徳山高専でロケされたそうです。これからの日本のものづくりを担う学生たちを爽やかに描いた作品だそうです。（本校名誉教授・田中先生談）

もの作りの大切さが叫ばれているいま、高専生のやるべきことは？ さあ、みんなで考えましょう、図書館に来て。



## しょうゆ賛歌第二集

木村 尚三郎等著

しょうゆ情報センター

醤油の普及と宣伝のため醤油業界がこぞってPR事業開始、その発足を記念して「しょうゆ賛歌 第一巻 エッセイ集」が上梓されました。その昔、ソイソースと呼ばれていたしょうゆも、いまでは世界に冠たる調味料「しょうゆ」として君臨？しています。アメリカなどで「しょうゆ」の置いていないスーパーを見つける方がむずかしいとか。グルメからはほど遠い味音痴の私でも世界中の数ある調味料の中で、あのしょうゆの味と香りは最高だろうとつくづく思います。醤油の少し焦げた香ばしいにおいで食欲をそそられない人はいないのではないのでしょうか。しょうゆに纏わる様々なエッセイは、製造法や料理法はもちろんのこと、歴史的、文学的、民俗学と多岐にわたり大変興味深く読めました。好評だったため、第二集を上梓、図書館協会を経て、奈良高専の図書館に贈られてきました。もらいものには、ろくなものがないというのがこれまでの自説でしたが、この本で、それが、いかに独断と偏見の所産であったかを痛切に感じました。日本の味、おふくろの味を絶やしてはいけません。さあ、ソース顔のみんなも、しっかり醤油を食べよう。

## 人生の黄金律

なかにし 礼著

清流出版

今、一番脂の乗りきっているなかにし礼さんと、スポーツマン、文学者、写真家、俳優など各界で活躍する人の対談集です。ちょっと、優等生すぎるくらいはありますが、りえちゃんだって真摯に生きてるなあ、と感動しました。一流といわれる人はやっぱりどこか違う。惰性とぬるま湯の毎日を少し反省しました。

## 本の運命

井上 ひさし著

文芸春秋

ひょっこりひょうたん島のといっても、平成生まれのみなさんにはわからない。けれども若い人から年寄りまで、結構人気のある井上ひさし先生の本です。電車の待ち時間駅の売店で求めました。気軽に買ったにも関わらず中身は重いです。本人の生い立ちから本好きが高じて故郷に図書館をつくるにいたるまで、あちこち寄り道しながら語ってくれます。図書館の蔵書数は13万冊といいますから、半端ではありません。本校のほぼ2倍。全国学校図書館協議会後援のオーサー・ビジット・プロジェクト（作者を学校に呼ぼう）に本校でも今年この作者で応募したクラスがあります。当選して、井上ひさしさんが、あの顔でやってきてくれたらいいなー。

## 図書館への私の提言

三田 誠広著

勁草書房

さすが文学者だけあって、難しい法律用語をやさしい言葉でわかりやすく説明してくれます。前々号で高橋先生、あなたが出版社からもらったのは印税ではなくて、著作権使用料ですよ。（印税は昔の言葉です。他にもいろんなことがわかります。）

特許制度は発明者・考案者の保護をして他人の違法な模倣を禁止するものです。一方著作権は、著作物に関する一種の知的所有権で、幅広い権利が含まれています。でもその幅広い権利が、著作者に届かなくて、小説家をはじめとする作家先生がピンチに。その元凶が公共図書館だったり、貸本屋、新古書店、漫画喫茶だったり。人気の本を図書館で借りて読むということは、読書をタダで楽しみ、情報を得ているにも関わらず、著作権使用料を著作者に支払っていないということになります。公共図書館は利用者の要望に応じるといだけでなく、自国の文芸文化を支えるという重大な使命があるはずだと著者はいいます。ウーンとうなっていましたね。

### ものづくりの時代

小関 智弘著

NHK出版

ブラックボックス化された技術をたくさん含んでいるのがハイテク。身近なものを作る等身大の技術をハイテクに対してローテクというとか。ハイテクが上で、ローテクが下か？言葉で惑わされがちですが、それに異議を唱える人がいます。東京は大田区内で50年余り町工場で旋盤工として働いた著者が、町工場の現在の話を語ります。どんなハイテクだって、それを支えるローテクがあってこそ。茶髪の若者が2年で、黒髪の立派な仕事人に育っていくのが嬉しいという社長さんもいます。目的を理解したら、手段は自分流でという指導法を実践。若者たちの自主性にゆだねて、相手が育つのをじっくり待つ。それが最高の教育である。というある町工場の社長。そんな町工場から、世界一の平面研削盤が生まれます。誇り高き現場職人の研鑽の数々が現代の技術社会を支えているということがよく分かります。

### 行儀よくしろ。

清水 義範著

筑摩書房

教育とは、次世代に文化を伝えることだという信念に基づいてかかれた、清水流教育論。「今、私たちに必要な教育」と言う仮題で書き始めたが、全部書き終えたら、「行儀よくしろ。」という題名が電撃的に頭の中に浮かんだといえます。

文化を守った、美しい生き方を日本人は取り戻すべきであるという著者の主張に全く同感です。終戦以後、日本は復興のためあるいは高度成長の波間で富は得たけれども失ったものもたくさんあります。例えて言えば、生活習慣の美、通過儀礼、美しい言葉など。

「美しい日本語とは」の章で、最近頻繁に使われている別れ際の「お疲れさま」や「ご苦労様」の間違った使い方などきっちり書かれていて、モヤモヤがとれました。学生のみなさん、目上の人や先生に、こんな言葉を使ってはいけませんよ。

### だから、君に、贈る。

佐野 真一著

平凡社

待ちに待った第2巻がついに出版しました。シリーズ名「10代のためのノンフィクション講座」という堅苦しいタイトルで、引く人も多いと思いますが、とても読みやすい、これもまた教育論ともいえる本です。読みながら、ピンピン訴えかけてくる著者の熱いメッセージに 何度も胸が熱くなりました。師とも言える「宮本常一」の方法を語りながら、後に続く人たちに「精神のリレー」をしなければいけないと、強くて鮮烈な襷を掛けて著者は走っています。10代のためというタイトルですが、これはまさに大人に対する教育論ではないでしょうか。本校の教職員の皆様にもぜひ読んでいただきたい一冊です。第1巻を読んだ学生から「感動しました」という、感想を貰いました。薦めて良かった。

その感動がそのまま2巻でも味わえます。私は、その感動を著者に伝えたくて、手紙を出すつもりです。



## 図書館花巡りツアーへのお誘い



図書館閲覧室の書架にきれいな案内が貼られているのをご存知でしょうか。よく利用する人は既にお気づきでしょう。これは、昨年度図書館副館長だった、電気工学科山内先生が、自宅のガーデンを一年間かけて撮影して取り入れ、案内板にしてくださったものです。殺風景な書架が花々に囲まれて、いっぺんに華やかになりました。花の蜜にさそわれてミツバチが飛んできたところをパチリ。螞螂（かまきり）が斧を振り上げているところをパチリ。蝶がはねを休めているところをパチリ。その数70枚、花の種類にして100種以上もありそうです。いろんなお花があるもんですね。世の中には図書館がいっぱいありますが、こんな素敵な手作りの案内板に囲まれた図書館は奈良高専図書館をおいて他にはないでしょう。

首がだるくなりそうですが、たまには花を愛でながらの書架巡りをして



みましょう。そうすれば、カウンターで、「この本は、どこにありますか」なんてことを訊かなくてすむようになりますよ。また、途中で、思いがけない一冊の本に巡り会うことがあるかも知れません。（もっと、本格的なガーデンが見たいと言う人は、山内家、または、三重県にあるなばなの里へどうぞ。）



### 編集後記

今号は学生図書委員の皆さんが紙面づくりに頑張ってくれました。「もっと利用しやすい図書館を！」という図書館にとっての永遠のテーマに向かって努力を惜しまない委員の皆さん、とりわけ委員長さん、本当にご苦労様でした。B.H.に参加して勉強になった、満足だ、と言う声がたくさんかけたのは図書館委員会としても嬉しいことでした。秋のキャンパスは行事がいっぱい。どんなささやかなことでも、参加すればそれなりの達成感や、感動を味わうことができます。その感動は努力の程度と比例して大きくも小さくもなります。難しい本を読んだり、難問に挑戦したり、あるいは高専祭、ロボコンなど……。どんな行事でもいい、学園生活の中で何度も達成感や感動を味わって欲しいと切に願います。最後になりましたが、お忙しい中原稿をお寄せ下さった方々に深く感謝します。

(図書館委員会)